



第 45 号

発行所

〒157-0066

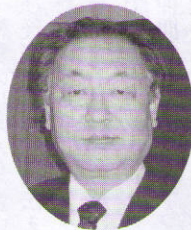
東京都世田谷区成城1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 阿部俊夫

編集責任者 清水茂



### 同窓会の皆様へ

名誉会長 五十嵐 勲  
(武蔵工業大学付属中学校・高等学校校長)

平成十八年四月に、前任の門道之先生の後を受け、着任してから数ヶ月が過ぎました。これまで会員の皆様にご挨拶申し上げるべきところ、今に至っていることをご容赦ください。

皆様は、ご承知のように、旧校舎に学んだ皆様には、新しい校舎を見るにつけ感慨一入のことと推察いたします。グラウンドも人工芝を施し、整備工事も着々と進行しております。皆様方の様々な「思い」やご支援を基に、新しい学習環境が現出してい

と云ってすますのか。単なるいたずらと片付けるのか」と問いかけました。こうした行動が、男子校特有の元気さと考えるようなことがあつてはならないと考えたのです。こんなことは伝統でも何でもありません。皆様はどう思われるのでしょうか？

この時、私は新校舎の理科実験室に、当該の生徒と保護者の方を集めて、いわゆるお説教をしました。新しい映像機器を使用し、スクリーンに大きく写し出される画像には、正に口では言えないような文字も含まれていました。例えば、「〇〇死ね」とかの類です。

通常の生活の中で、子どもたちは、平気で、こうした言葉を使います。自分が幼なかつた頃、ちよつとした口ゲンカで、「バカ、バカ」というような遣り取りを思い出す人は多いでしょう。今は、テレビゲームやPCでのゲームなど、バーチャルな世界に入り込み、現実と虚構の世界の区別がつかなくなっている状況があるのでは無いかと指摘されています。また、携帯電話で、直ぐに他者の悪口やうわさ話を流すなど、

### 本年度の総会・懇親会は

日時 2007年11月9日(金)  
午後7時より第32回総会 午後7時30分より懇親会  
前回より同窓生の皆様が集まり易いように後ろに30分ずらしましたのでお間違いない様に。

会場 渋谷・エクセルホテル東急(渋谷マークシティ内)  
6F プラネッツルーム TEL 03-5457-0109

会費  
●個人参加 4,000円 (食べ・飲み放題)  
●グループ参加 (同級生・先輩・部活仲間に声を掛け合って3名以上のご同伴で)  
・3名参加=10,000円  
・4名または5名の参加=追加1名につき3,500円  
・6名以上での参加は上記3名参加2グループとします。

(注意) 会場はエクセルホテル東急へと第26回総会より変更となりましたのでお間違えない様に！是非、同級生や先輩、後輩に連絡してご一緒にどうぞ。

人権侵害につながる例は多く見受けられます。

旧校舎への落書きもこれと同質の問題が内在しているように感じられたのです。生徒・保護者に、「どうせ壊されるのだから」と不用意に調子に乗ってのことだろうが、もう少し深く考えてみて欲しい」と話しました。旧校舎で六年間も学び、大変な愛着を持っているOBの皆さんの気持ちを考えた

## 同窓会三十周年 を迎えて

同窓会会長 阿部 俊夫

ことがあるか。」と問いかけました。新校舎に移るまで、高校から入った生徒でさえ、半年間から二年以上思い出があり、奇麗に清掃していたことを考えてみて欲しいと論じました。たまたま保護者の中に、この「むさこう」のOBの方もおられて、目を潤ませていたように受け止めました。

このように、様々な人々の思いやご支援があったればこそ、新しい学習環境で生活できるのだということを理解して欲しいと、つくづく思います。

皆様の様々な、篤い思いを、ぜひ後輩の在校生に伝えてやっていただけたらありがたいと思います。そして子どもたちが、「むさこう」で学んだことを誇りとし、多くの仲間と交流を深められることの「素晴らしさ」を感じ得られる学校づくりを更に推進したいと考えています。生徒たちが自分の将来の夢の具体化に向けて前進できる学校づくりを努力するとともに、諸先輩、皆様の良き思い出やご苦労を分かるよう「心の教育」も重視していく所存です。

今後とも、同窓会諸氏のご支援を切にお願いし、ご挨拶にかえさせていただきます。

私が本同窓会に関わってから十五 years が経過しました。本同窓会は一九七六年十月に母校で設立総会を開催いたしました。しかしそれ以前に設立され、活動を休止した同窓会があり、学校側は同窓会としての活動実績を確認するまでは正式に認知出来ないとの理由で卒業生の入会も任意とされました。私が理事となり、二年後に会計を担当させていただきましたが、活動資金に事欠き、学校側の「活動状況を見て・・・」に應える状況ではありませんでした。しかし、同窓会の村上理事長の熱意と当時新任で校長に就任された熊谷校長のご理解、さらに同窓会としても「機関紙を製本式から現在の新聞形式とし年二回発行」名簿は種々のマイナス要素を理解したうえで名簿業者に発行依頼する等の実績をつけ一九九一年に学校の正式承認を受け卒業生全員の入会を実現

いたしました。昨年の第三十一回総会で満三十年を迎えました。私の理事就任時の役員は一期生二名、二期生二名、三期生五名、五期生から十二期生までで四名という構成であり、思い返すと十四期生の私は諸先輩を差し置いてずいぶん無茶苦茶な発言をしたものだと赤面の至りです。私は個人的に同窓会三十年の歴史を

設立の時期 設立から学校側の認知を受けるまでの十五年間

○ 成長の時期 認知後からの九年間

○ 成熟への時期 設立二十四年以降

○ 設立の時期 初代小杉理事長、二代目村上理事長を中心とした同窓会理事会は「学校側から認知されるまでは」を合言葉に不足する資金の中、同志的な繋がりで活動。成長の時期には村上理事長、三代目金野会長(規約で理事長を会長に変更)を中心として総会への参加人数の増員目標とし最盛期には二百人を超すまで成長。一方でゴルフコンペの開催、柏苑祭への参加等活動の幅も広がりました。しかし、バブル崩壊以降どこの企業も人数圧縮に入り理事の皆さんも仕事に忙殺されるようになり理事会活動への参加も思うに任せず、一時的な停滞状況も見られ

るようになりました。成熟への時期を迎えて病氣療養中の金野会長に代わり四代目阿部が会長に就任、活動の再活性化、役員若返り等、先輩の皆様に残していた実績の上に活動の実績を積み次世代に渡していくことを目的としています。

これまでの活動のなかで一八年間、名実ともに同窓会の責任者として活動された村上理事長、その間、副理事長として、更に四周年会長として活動いただきました二期生の金野さんこのお二方がなしでは今の同窓会は存在しておりません。残念ながら二〇〇一年に金野さんが二〇〇六年に村上さんが逝去されました。同窓会として悔やみきれない財産を失った思いです。しかし、同窓会としては新しい役員が結束して新たな歴史を書き加えていかなければなりません。母校も創立から十四年間の尾山台時代、新校舎で向かえた成城時代、更に昨年全面新築した新しい校舎へと変遷を重ねてきました。毎年二五〇人を越す新会員を加えつつ今後も発展を続けるため、先輩たちが築いた土台の上に大きな柏の木を生長させていきたいと思います。

## 第31回 総会報告

総会日時 2006(平成18)年11月9日(金) 19:00～  
渋谷エクセルホテル東急

### 2005年度(2005年10月1日～2006年9月30日)活動報告

- '05.11.18 第30回総会 於 渋谷エクセルホテル東急6階プラネッツルーム  
第1号議案～第5号議案 全て原案通り承認されました。  
懇親会 於 渋谷エクセルホテル東急6階
- '06.01.20 第2回理事会  
①卒業式の件 ②同窓会名簿廃版の件  
③HPの件 ④学校側窓口の件
- '06.03.01 高校卒業式に出席
- '06.04.14 第3回理事会  
①校長退任に伴う、お礼と慰労会
- '06.09.26 第4回理事会  
①柏苑祭、総会準備について ②『柏』44号発行準備について  
③役員体制の構築について
- '06.10.20 第5回理事会  
①柏苑祭準備、役員体制確認 ②総会準備 議案確認
- '06.10.20 『柏』44号発送 8500通

### 2005年度(2005年10月1日～2006年9月30日)決算報告

#### 一般会計報告(収入の部)

科目	予算	決算	内 訳
入会金	750,000	756,000	53期生252名
年会費	1,500,000	1,470,000	53期生252名、その他238名
引継金	4,364,771	4,364,771	前期より
雑収入	1,000	316	預金利息
合計	6,615,771	6,591,090	

#### 一般会計報告(支出の部)

科目	予算	決算	内 訳
会議費	120,000	107,917	理事会4回
総会費	200,000	167,412	
『柏』制作費	30,000	0	
通信費	1,000,000	647,480	『柏』43号(@80×8,017)他
印刷費	700,000	405,205	『柏』43号(9,500部)他
発送アルバイト費	200,000	140,000	『柏』43号発送アルバイト
事務費	40,000	12,530	
同窓会賞費	80,000	50,000	
小委員会費	25,000	0	
名簿整備費	50,000	50,000	名簿管理アルバイト
柏苑祭費	30,000	0	
HP制作費	200,000	210,000	
会員交流補助費	40,000	0	
予備費	100,000	79,000	
繰越金	3,800,771	4,721,546	
合計	6,615,771	6,591,090	

名簿会計決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
前期より繰越	- 493,003		
次期繰越金		- 493,003	
合計	- 493,003	- 493,003	

第30回総会決算報告

科目	収入額	支出額	内訳
会費	80,000		
祝金	6,000		
景品		32,309	
懇親会費		221,103	
総会援助金	167,412		
合計	253,412	253,412	

繰越金総額

一般会計繰越金	4,721,546 円
名簿会計繰越金	- 493,003 円
合計	4,228,543 円

繰越金内訳

定期預金口座	639,787 円
貯蓄預金口座	632,133 円
普通預金口座	49,462 円
郵便振替口座	3,328,068 円
現金	- 420,907 円
合計	4,228,543 円

同窓会役員名簿

(2006年10月1日～2008年9月30日)

会長	14期生	阿部 俊夫
副会長	7期生	岩本 征義
副会長	16期生	梅田 博夫
事務局長	21期生	神田 清人
事務局次長	14期生	清水 茂
事務局次長	24期生	宮原 茂
事務局次長	25期生	安藤 友二
事務局次長	26期生	小泉 武司
会計	3期生	上島 正義
会計	12期生	今井 章久
理事	3期生	上島 正義
理事	8期生	柴 孝昭
理事	16期生	岡田 光夫
理事	16期生	小林 英世
理事	17期生	中曾根 茂
理事	19期生	塩満 守
理事	20期生	松原 信利
理事	21期生	長谷部伸一
理事	27期生	徳山 長生
理事	27期生	坂田 真一
会計監査	24期生	白井 康雄

上記の通り2005年度の会計報告を致します。

2006年11月9日

会計 上島 正義 ㊟

今井 章久 ㊟

会計監査報告

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示、掲載されていることを認めます。

2006年11月9日

会計監査 白井 康雄 ㊟

2006年度(2006年10月1日～2007年9月30日)予算案

収入の部

科目	予算	内訳
入会金	750,000	54期生250名
年会費	1,500,000	54期生250名その他250名
引継金	4,721,546	前期より
雑収入	1,000	預金利息
合計	6,972,546	

支出の部

科目	予算	内訳
会議費	120,000	理事会6回
交通費	100,000	理事会
総会費	200,000	総会援助金
〔柏〕制作費	30,000	編集委員会2回
通信費	1,000,000	〔柏〕44号(@80×8,000) 45号(@80×3,000)他

印刷費	700,000	〔柏〕44号9,000部¥300,000 45号9,000部¥200,000 封筒他
発送アルバイト費	200,000	〔柏〕発送アルバイト
事務費	40,000	
事務局活動費	200,000	
同窓会賞費	80,000	
小委員会費	25,000	
名簿整備費	50,000	名簿管理アルバイト
柏苑祭費	30,000	
HP制作費	200,000	HP維持費
会員交流補助費	40,000	武蔵クラシック補助
名簿会計清算	493,003	
予備費	100,000	
繰越金	3,364,543	
合計	6,972,546	

# 理事会報告



事務局長 神田 清人 (二十一期)

平成十八年秋の理事会より前塩満守(十九期)事務局長より引き継ぎ、理事から同窓会新事務局長に着任いたしました二十一期生の神田清人(キヨト)です。

今後とも前任事務局長に変わらずのご支援をお願い申し上げます。

母校は平成十八年四月に前任の門校長が引退(停年)され、五十嵐校長が後を引き継ぎ就任されました。

当同窓会としては、会長を初めとして理事会・事務局との「顔合せ」が必要と考えております。

新任校長は新築工事の最中の着任でもあり、事務の引き継ぎなどお忙しいご様子とお察し致しましたのでいち段落つきました時点で実施して、情報交換をして行きたいと考えております。

一、右、記載された様に第三十一回総会(昨年秋)にて組閣いや役員並びに新理事長の入閣いや着任が

決まりましたので、本号四ページに掲載させていただきました。昨秋の総会では、出席された二十五期・二十七期の後輩の方からも同窓会のお手伝いを是非!との事務局にとっては願ったり叶ったりの新理事が誕生しました。利害関係の全くない同窓会理事会で様々な情報を共有して下さい。新風を吹き込んで下さい。大歓迎をします。

今春の卒業生で54期生となりまして、事務局としては、同窓会が各卒業生に「一人名、万遍なく」同窓会理事」として名前を連ねて積極的に「参加」していただける様な体制作りを切なる「理想」として描いています。

同窓生の皆様、是非とも毎年秋の「総会」にはご参加いただき、ご支援ご協力お願い致します。

校舎もピカピカです。柏苑祭にも足をお運び下さい。

● 柏苑祭 平成十九年十一月初旬 (未定)

● 第32回総会・懇親会 (成城新校舎同窓会の部屋) 平成十九年十一月九日(金)

・総会 十九時  
・懇親会 十九時三十分  
(巻頭ページ参照)

二、昨年夏に竣工した卒業生にとっても自慢となる新校舎においての母校の授業も、円滑に進められている様子で、先生方、生徒さん、ご父兄の皆様含め心機一転勉学・文化・スポーツ活動にと途惑いながらも恵まれた環境を享受している様子です。心配なのは、「男子校」ならではの「美化意識の欠如」かな!とも。物余りの著しい世相ですが「他人の物は大切にする」「他人の心を思い遣る」余計な事がもしもありませんが、私たち卒業生が懐かしくて母校を訪れる機会が今後多々有ると思います。

自分の息子も「この様な学校に入学させたい」と思わせる様に私たち卒業生も含めて一緒に足もとからの美化にお互いに努めたいと考えます。

三、平成十九年六月(日は未定)に新校舎竣工式(記念式典)が執り行われます。具体的な内容は確認されていませんが、今後情報を受け次第ホームページに書き込みます。是非、ご覧下さい。(ホームページアドレスは巻頭参照)

四、平成八年十一月の総会まで同窓会の会長をお願いしております



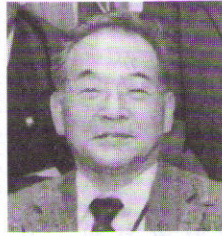
た村上義雄(一期生)氏が急逝されました。同窓会の発展のために多大なるご尽力をいただき誠に感謝申し上げます。安らかにお眠り下さい。

五、武蔵工業大学の校名変更について

「柏」第27号(平成八年二月発行)で特集しました大学の校名変更について武蔵工業会(大学同窓会)からの情報によると現在育英会として「都市大学」「武蔵都市大学」「東京横浜大学」の三案を検討しております。校名変更は総合大学化してゆくという五鳥育英会の傘下の学校経営上の戦略から出発しています。この学校名統一に伴い、現在のそれぞれの各付属の高等学校・中学校・小学校・幼稚園の名称も変更されると思われま



# 本読みの好きな方に育ってもらうために



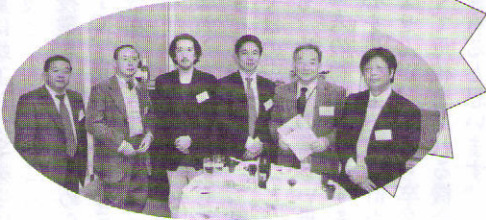
「本を  
読むこと  
の大切さ  
について」  
タイトル  
はこの様  
なもので

良いのではないでしようか」事務局の清水氏から資料(関連した新聞コピー)と共にこんなFAXが届いてから何ヶ月も過ぎた。以前から原稿の依頼があり、何とかお手伝いしたいと思いつつも、お応えするようなネタもなく返事をしあぐねていた。先般お会いして、新校舎にむけての話など諸々話題になったが、場の雰囲気と氏の含蓄の深さに引かれて、冒頭のような題を頂戴してしまつた。私は、いま司書教諭として定年後も引き続き在任している。この職種、人からは本がよく読めるところと思われているらしくて「本が

囑託 尾崎 英昭(国語科)

読めて良いですね」と言われてしまう。しかし、思う程には読めない。従つて言われる度に「多くの本を見てはいますが、なかなか読むことはできません」とお答えしてきた。日頃本を読んでいないことへの逃げ道にしてきた感もあるが、読んでしまうと受け入れ等の図書館としての作業任務が進まなくなることも事実であった。しかし、こんなことをこぼしながらも清水氏との話の中では「本を読むことは、自己形成の根本である」などと話し始めたことが、こんな稿をおこす破目になつたのである。清水氏は「想像力・創造力・洞察力・直感力」の「みなもと」云々の副題まで設けてくれたが、戴いたようなタイトルでこの稿を認めるのは釈迦に説法のように「お前に言われたくないよ」との言葉が返つて来そうな気がする。そこで、今、立場・観点を變えて、ご

## 懇親会スナップ



## 同窓会・新任理事紹介

昨年十一月の総会から当同窓会をお手伝いしていただくことになりました。新任理事の方々です。「同窓会」という一点での繋がりから、先輩・後輩の隔てなく企画を提案していただき、それぞれの価値観を共有し交流を深めて下さい。よろしくお願ひします。

★ ★ ★ ★ ★

### 坂田 慎一(27期生)

この度、幹事役を積極的になさつていらっしゃる諸先生方を拝見し、微力ながらお手伝いが出来れば幸いと存じます。よろしくお願ひします!

### 徳山 長生(27期生)

懐かしい、母校ムサ校で旧友、恩師、先輩方と協力し家族連や働盛りの世代の卒業生たちにも気軽に参加し楽しめる同窓会の企画をしたいです。



子女・ご子息の読書意識の向上にむけての一つの話題にでもなればと思ひ、氏との話や、提供を受けた資料を参考にしながら、本を読むことへの誘いを中心にして、追いつめられた話の逃げ場を作ることにする。清水氏の送ってくれた資料から稿をおすが、四月六日(新聞をヨム日)に日本新聞協会が「活字文化があぶない!—メディアの役割と責任」と題するシンポジウムを開催している。活字文化の重要な担い手としての新聞をめぐる状況を「危機的」と指摘していることである。その席で協会長の北村氏は、「インターネットや携帯電話の普及で、ゆっくり文章を読み、深く物事を考える機会が失われている」と指摘されている。また作家の柳田邦男氏は「自分の関心事以外の情報も掲載されている新聞からは世界や宇宙までも知ることができているが、関心事だけをネット上で検索しては世界が見えなくなる」と述べられている。再販制度や新聞の特殊指定制定に支えられて、幅広い情報に触れる機会が保障されているのに、現代の若者は自分に関心のあるもののみを選び、他は見向きもしないとい

う現実が見えるという。新聞をヨム日の記事だけに新聞中心の話題ではあるが、本に置きかえてみても同じようで、現代の若者はじっくりと本を読もうという姿勢が見えないという現実がうかがえる。それに加えて「読書離れは出版界だけの問題じゃあない。この国の将来を左右する重大事なんです。」とおっしゃるのは、今般、出版文化産業振興財団理事長に就かれた肥田美代子氏である。現在は、童話作家というのが最も知られた肩書きになる人であるが、作家デビュー当時から活字離れを嘆いておられた。参議院、衆議院と合わせて十五年間の議員生活をなさって、その間「国際子ども図書館」の設立や「子供読書推進法」の施行をはじめ、読書環境の整備を進める「文字・文化振興法」の成立などに力を注がれた方である。昨年の総選挙での落選を期に、分刻みの生活にピリオドを打たれ、民間の立場で読書運動を進められる前記財団の舵取りをなさることになった。「赤ちゃんのうちに言葉のシャワーを浴びせたい。それが本好きの子を育てる秘訣」とおっしゃる「子どもの味方」である。

ユネスコが四月二十三日を「世界の日」と制定して久しく、日本では平成十二年を「子ども読書年」に制定して、子どもたちの読書活動を奨励した。また、それを受けて成立した「子ども読書推進法」では、その四月二十三日を「子ども読書の日」と制定した。さらに読書推進協議会は、この日から五月十二日までの三週間を「子ども読書週間」また、秋には、十月十七日の「文字・活字文化の日」から十一月九日までを「読書週間」と定めて様々な行事を開催している。このように子ども読書活動に関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を高めるように進める運動が各地で行われ、子どもたちの関心を本にむけようとしている今日である。しかし、実は子ども読書離れが著しいと言われはじめた頃の子どもたちが大人になっっている時代で、こうした運動があること、ましてや「子ども読書の日」という日があることすらもご存知ないのではあるまいかと思いたくなる程、子ども達の本を読む環境が育っていかなくなったのである。実は大人が本を読まないものである。毎日が忙しいと嘆いてい

るそんな中で、こうした不読者増加の傾向を憂いて学校図書館協議会をはじめ、多くの組織が「本を読む子を育てる」と努力を始めたのである。どんな動きであったか、幼年期から中学生頃までを辿ってみたい。

いま幼い子どもたちにむけては「読み聞かせ」ということに注目している。子ども情緒的発達を促進すると共に、母子間のかかわりを高める効果を期待して「ブックスタート」という活動がイギリスで始まり、日本でも「子ども読書年」をきっかけに紹介され、「読み聞かせ」運動へと展開してきた。

子守歌を歌ってもらったり、お話をしてもらったりしたのと同じように、子どもの頃によく本を読んでもらった経験や、ご自身が子どもたちに読んで聞かせたという経験をお持ちの方は多いだろう。読んでもらって聞いていると心地良いし、誰しも「大好き」などである。すぐに夢中になりやすく、魂までも吸い取られやすいゲームなどと違って本の場合、読んでみないと好きも嫌いもない。そんな時「読みなさい」では話は進まない。子どもたちはまだ本の楽しさ

を知らないのである。そういう子どもたちに読んであげて、本の世界に入ってもらおうというのである。本を読んでもらうのは、何も幼児期だけでなく、小学生になっても中学生になっても本能的には嫌いではないであろう。長い物語を目で追わないで耳で聞いていると想像力が呼び起こされて面白い。そこには風景や情景が。読んでもらってハラハラ、ドキドキして聞き「本の持つ楽しさ」を知ることになるわけで、本の世界に入っていく「第一歩」となる。

しかし、この「読み聞かせ」の行為は、自分で文字を追って読んで頭に浮かべるよりは負担こそ少ないが、いつまでも続けてはおれない。これにはまず読んでくれる第三者が常に必要で、一人ではできない。そこで一歩進めて考えるのが一人読み「音読」である。人に読んでもらって聞くだけの段階からさらに自分で声に出して読む次の段階へと進むのである。

声を出して読むと言葉がからだに馴染み、書かれている内容もより正確に読みとることができ、他の読み方と比べて脳の活性化度も高いといわれている。自分の声

ではあるが、もう一度耳から聞いて来ることによって、自分の思いでしっかりとイメージ化し、内容を再現することができる。こうしてより深い読みとりができるようになってくる。自分自身が本の中に入っていく、あたかも自分が主人公になったように感じ、本の世界の楽しさを実感するのである。その中のいくつかは自分の心の中にしっかりと焼きつく。音読の醍醐味がここにある。楽しみながら心を豊かにして人々と接し、会話ははずみ、人間関係も変わってくる。

語彙が乏しいために生じているとされる単語だけを並べて成立している現代っ子のデジタル会話も解消されるであろう。また、別の見方をするならば、黙読ではごまかしてきた漢字の読み方もごまかしがきかないことになる。リズムや抑揚のつけ方によっては文章をしっかりと把握しているかどうかも解ってくる。自分自身の読書に對する力量がはっきりとわかる方法ということにもなる。

「読み聞かせ」から「音読」を中心にして読書への誘いについて触れてきたが、気になるのは中高校生

の読書活動はどのようであるうか。様々な対応に追われる中、読書量は増えているのであろうか気になることである。一般に中学生になると読書をしない人が増えていくといわれてきた。

厳しい受験から解放されたのに加えて、辺りにはてつとり早く楽しめるものが増えている。こうした現状を思うと育ちつつあった読書の喜びを忘れてしまったのではないかと考えたりもするが、いま不読者にむけての対策は、徐々にではあるが、ここでもなされている。「十分間読書」と呼ばれる運動がそれである。これは、ある学校が不読者増加の問題に悩み全校的な取り組みをし、「朝の十分間読書」という時間を設けて生徒を本に向かわせた。これが発端で小中高共に全国的な運動となり、様々な工夫がなされ、何らかの形で「読書の時間」を設け始めている。これによって児童生徒の読書量低下の傾向を食い止め、増加にむかいつつあるようだ。

本校の場合は未だ全校的な運動とはいえないが、中学を中心に国語の授業で取り組んでおり、始業直後の数分間を「読書の時間」に充

てて、生徒各自が思い思いの本を読んでいる。これに伴い図書館の本の貸出冊数も、ひとところと比べると一段と伸びている。

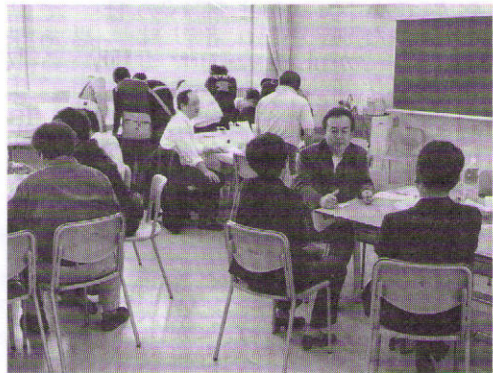
中学生として知りたいと思う好奇心がこのような読書する楽しさ、素晴らしさとして目覚めてくると、この後は何も言わなくても読み続けるであろうことは想像するに難くない。長い人生の中で中学生時代ほど読書の奥深さを感じられる時代はないともいわれている。「本を読むことの魅力と感動すること」(他の一方通行視覚メディアに対しては相当程度優るとともに、自分自身との心との対話作業をも叶えることが可能となること)の大切さがわかってくるのである。

当初は齋藤孝氏の「読書力」(岩波新書)においての「大学生に本を読まない自由はない」を中心に、若老に苦言を呈する稿を考えていたが、言える立場になかった。そうではあるが、この齋藤氏の著は読書力向上にむけては参考にして欲しいと思っている。



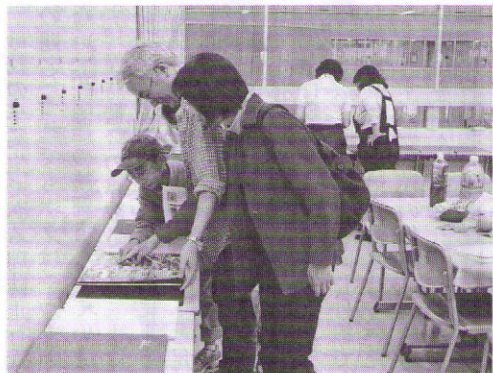


## 第48回 新校舎での柏苑祭



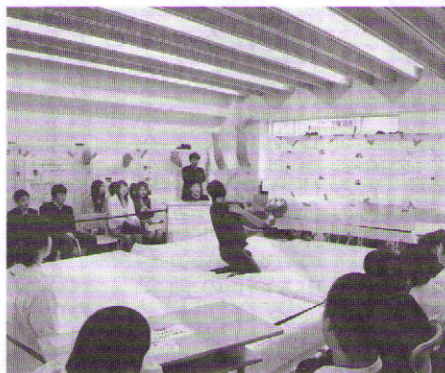
十一月四日、五日。新校舎へ移って最初の柏苑祭、従来の校舎では卒業アルバム展示も手馴れていましたが、初めての校舎、勝手がわからず・・・尾崎先生を筆頭に先生方のご協力に助けられ、開場時には同窓会室も無事オープン。落ち着いて校舎を見ると、これが校舎？先入観にある廊下と教室のイメージがまったく合わない。広々とした廊下、教室の廊下側は全面ガラス張り、教室内が丸見え。同窓会の展示室から中庭を見るとそこにはテラス。おじさんの頭の中は・・・

同窓会展示室内部は例年通り、



母校を訪ねてくれた同窓生が喉を潤し、思い出話にひと時を過ごす空間があるだけ。しかし、十年を越す柏苑祭への参加の実績が実を結び「同期の仲間と年一回会う待ち合わせ場所」子供に自分の若かったころを見せたくて「息子が入学希望なので学校見学のついでに」理由は色々、今年の特筆は一期生の先輩が五名で「村上(元理事長)が亡くなって、懐かしくなり、此処に来れば知った人に合えると思えば担当理事として胸が熱くなる思い。二日間訪問者の絶えない時間が過ぎていきました。

中澤 宏(十三期)



### 編集後記

今号より、「柏編集に当たりお手伝いしていた」だ、安藤さん、さらには新理事、徳山さん坂田さん、よろしくお願ひします。編集にも新しい風を吹き込んで下さい。さて、巻頭では新しく昨年四月より着任された五十嵐校長先生にお願ひしました。

旧校舍取壊しの際の「いたづら書き」の件についての生徒さんの行動は、現在の日本における社会状況とも一致する点が多々有る様です。私たち団塊の世代(この呼び方は、私は好みません)生まれの時期は選べません(私のや、それ以降の世代の親たちが子供の教育に関して無責任過ぎたことへの反省をしなければなりません。高度成長に現を抜かし、視聴率第一主義のくだらないテレビのパラエティー番組に対しても子供たちに注意もせず見て見ぬふりや、それらを悟すことにも躊躇し、子供のご機嫌を伺うことが「良い親」と勘違いしたことも原因の一つであります。悪い意味での「家庭内平和主義」なのですかね。不思議なのは昔ならば必ず「止めた方がいい」と反対者が一人や二人出てきて、言い争いになるが

結果収まるということが有った筈である。思い出せば、昔のテレビ映画では「弱きを助け強きを挫く」正義の味方、例えば古くは鞍馬天狗・ハリマオ・少年ジェット等々が視聴者である子供の心に深く刻み込まれたものである。また、そういう番組が多かった。

「正しいこと」「悪いこと」の区別が知らないうちに身につけていた。今は?とえばTVゲームでは「どちらが強いのか」「負けるか」なのである。そこには、他人を思い遣ったり、気持ち察すること等の「心」の介在する余地はない。痛ましい事件もその延長線上なのである。メディアも昔は「自主規制」をしたものだ。やはり「経済至上主義の置き土産」なのである。そのうち戦争好きの大人が増えるであろうことは容易に想像がつく。注意が必要である。尾崎先生には国語科の先生として「読書の大切さ」について専門家として記述していただきました。本を読まないことへの危機感が社会全体として現在捉えられていることで少し安心させられました。村上大先輩が急逝され、いつもの「ニコニコ顔」にお会いできなくなり本当に残念です。

母校の卒業生である周防正行氏の題名「それでもボクはやっていない」が話題の映画となつています。周防監督の尊敬される「小津安二郎」監督の目線・視線に小生も浸るべく映画館(シネマ)へと足を運ぶつもりです。裁判(周防氏は刑事事件)並びに裁判所を取り巻く実体を取り扱っていますが、小生も行政訴訟に関わり早や十年。傍聴も数十回。監督と同じ目線で今後も機会を見て報告させていただきます。周防氏の作品に皆様も是非足を運んで下さい。ただし、加害者予備軍?は絶対に行かない様に!



清水(十四期生)

今回より、清水先輩と一緒に編集をやらせて頂くことになりました。宜しくお願ひします。今、周りを見回すとグローバルスタンダードとかM&Aとか「拝金主義的経済」の考え方が蔓延しつつあるように思ひ、それにより良い価値観・道徳・観念といったものが失われて来ているように思ひ、思ひ、頼もしくもサ高の先輩方と同窓会の理事会や編集委員会等を通じて聴く会話を思ひ

起すと、「中国での貧富の差が加速度的に激化しつつあることや、社会主義の国であるキューバの個人への市場開放、環境破壊」(以下)のまま突き進んでいいのだろうか?

日本は、アメリカに追いついて来て今に至っている。現在のアメリカは、貧富の差の激しい社会の中で何処に向かおうとしているのか?そして、日本は世界の中でどのような位置をとるのか?不安になつてくる。経済至上主義といつても、本来、お金とは、物を作つて売つたり、サービスを提供することによつて得るのが正当な手段だつた筈である。それが、最近はお金でお金を得る(M&A、デリバティブ、株のデイトレードインダストリー)何か殺伐としていて、自滅への道を歩んでいるように思ひ、歴史・文化によつて培われた価値あるものを生産し、継承していつてくれるのやら怪しくなつてくる。今回から、清水先輩と「柏」を編集することになり、色々な意見や考え方を出来るだけ多く紹介出来たらと思ひついでいますので、原稿を私達から依頼された方は、楽しみながら、又は、熱く、語つて頂きたいと思ひますので、ご協力宜しくお願い申し上げます。